

広報 ふじ

NO. 129

48.2.25 発行

発行・富士市役所

富士市永田61-1

編集・企画調整部広報課

【毎月5日と25日発行】

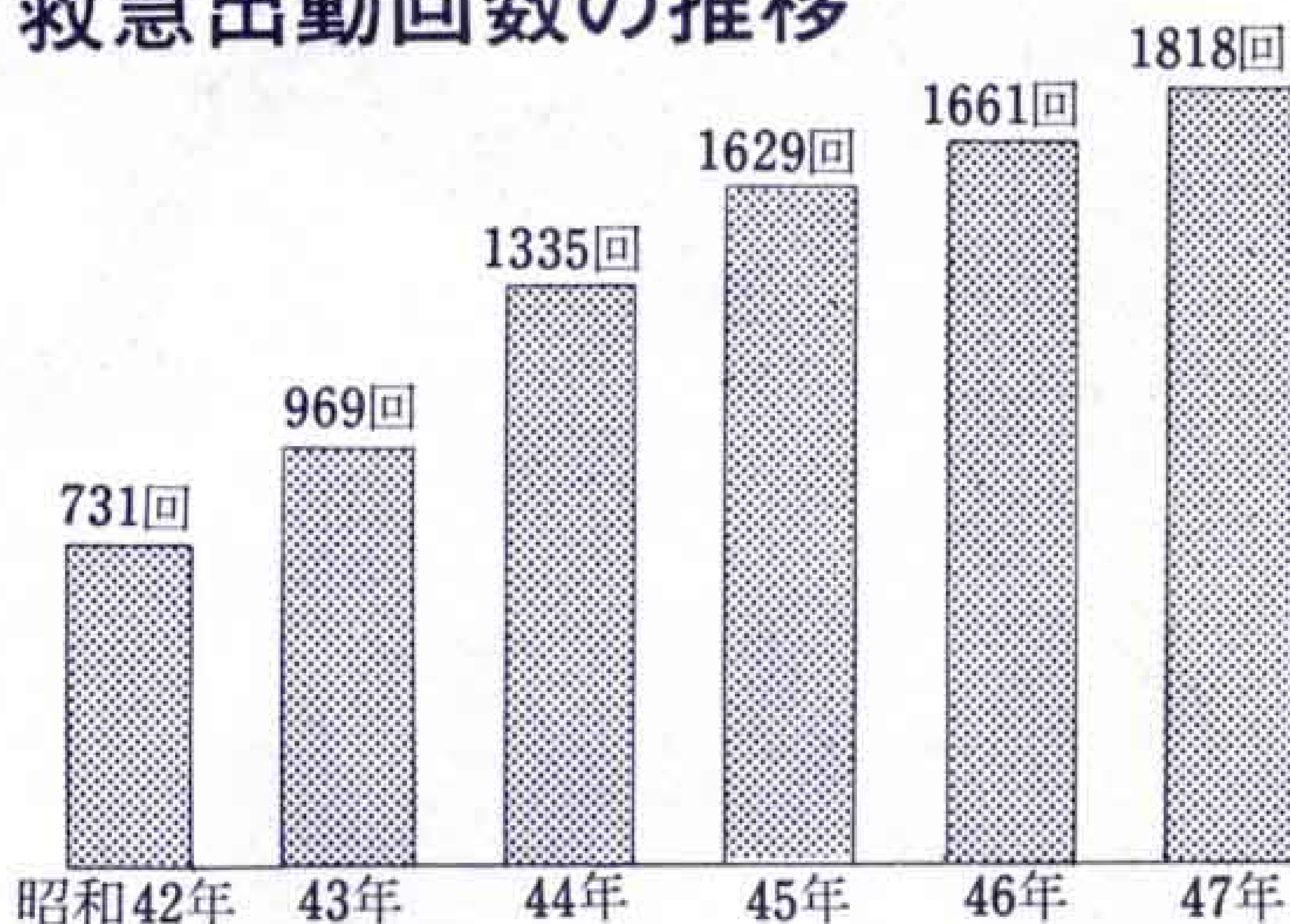


影絵「おばけちゃんの家の中」 伝法小学校 三の四 中村弘志

ピポー ピポー。1年365日、救急車の出動しない日はありません。昨年の出動回数は1818回にのぼり、1日に平均5回出動したことになります。しかし、出動回数は年ごとに増えていますが、交通事情の悪化、不必要な出動要請などの問題がおきています。昨年1年間の出動状況、救急隊の勤務などをみてみましょう。

年ごとに増える

救急出動回数の推移



去年は1818回救急出動

はい、こちら119番ですー「急病人ですがすぐ来てください」。場所はどこですかー「〇〇町の〇〇付近です」。病人はどんな状態ですかー「仕事をしていて急に倒れました」。連絡先はー「〇〇町〇〇番地、電話は〇局の〇〇番です」。はい了解しましたー。

このような通報がある 때마다 救急車は現場にむかい、病人を病院まで運びます。

現在、救急業務は消防署と富士分署に配置されている2台の救急車でこなしています。昨年1年間の出動件数は1818回（昭和46年は1661回）と、前年より157回も増加しました。

種別では、急病が最も多く698回（620回）、交通事故650回（647回）、一般負傷151回（119回）、労働災害76件（64回）火災65件（61回）などが主なものです。このように、去年は急病による出動が一番多くありましたが、救急業務をはじめた昭和41年から46年までは、交通事故に

よるケガ人が急病人を上回っていました。入れ替わった理由は、昨年1年間の交通事故が前年より大幅に減少したことです。夜間など病院がなかなか見つからない

ための要請、軽い病気やケガなどでタクシー代わりに利用する人が増えたこともあります。このような傾向は、東京都や尼崎市など人口の集中している地域でも現われています。

東名高速道路に68回出動

月別の出動件数は8月が最も多く201回、10月が178回、12月が175回、3月が160回、逆に少ない月は2月の114回、6月の126回でした。8月と2月では約86回の開きがありますが、8月は暑さのため健康管理が

十分できず睡眠不足による急病などが多く発生しているためと思われます。

1週間のうちでは日曜日が330回、月曜日220回、火曜日245回、水曜日214回、木曜日261回、金曜日201回、土曜日260回、祝祭日87回となつています。

また、東名高速道路の救急活動も多く68回出動しました。富士市の受け持ち区域は、上り線が富士インターから沼津インターまで、下り線が清水インターまでで、1回出動すると、病院へ運んで帰ってくるまでに約1時間30分ほどかかります。東名の救急は、ほとんどが交通事故で、上り線へ32回、下り線へ36回出動しました。



救急業務

救急活動の24時間

救急活動の実情をお知らせするため、2月15日、8時30分から24時間、消防署に勤務して、救急隊取材しました。

救急隊は24時間勤務。1日が8時30からはじまる。前日の勤務者と交代し、まず第1番の仕事は救急車の点検。人工呼吸器は完全に使えるか、応急処置に必要なホウタイなどの補充はないか、常に出動できる準備をととのえる。

点検も終り待機室に入るとすぐに119番が入る。8時45分。指令室から直接スピーカーを通じて話しの内容が聞こえ、待機室の空気が一瞬ピンとハリつめる。電話をかけてきた人があわてている。事故の様子や場所の確認など応答が続く。指令室から富士分署の救急車に出動命令が出る。指令室は救急車との連絡でいそがしい。事故現場の連絡、病院の手配など……。負傷者を病院へ運ぶ。

10時47分。急病人発生。場所は田端町のS製紙内。指令室から消防署の救急隊に出動命令。救急車は弥生線を通つて現場へ。病人は会社の中を歩いていて急に倒れた。意識ははつきりしている。救急車を静かに走らせる。付き添いの人から指定された病院は、空ベッドがないためY病院へ。病院では玄関に移動タンカを

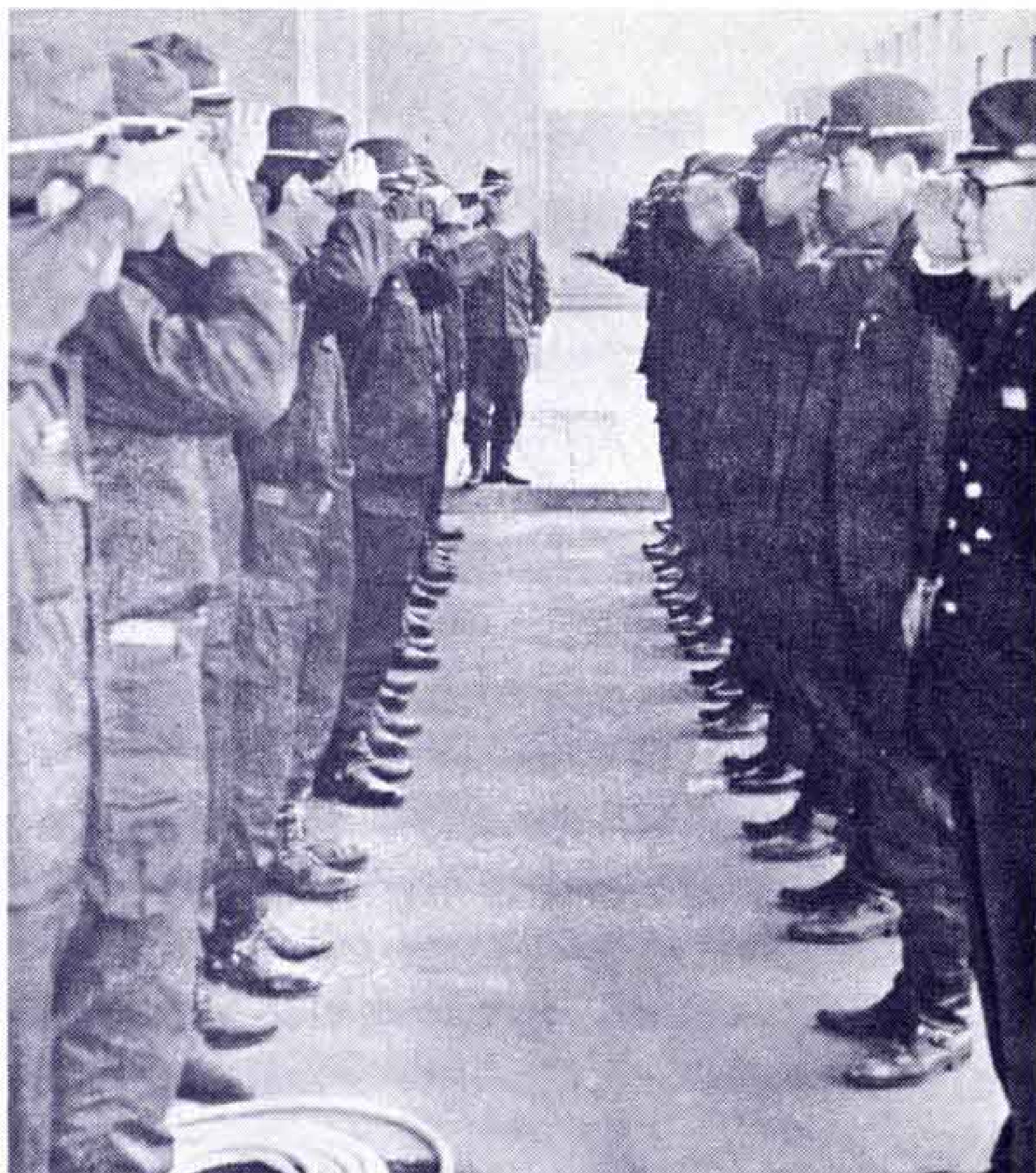
出して救急車の到着を待つ。病院へ運び終るとすぐに消防署へ帰る。出動してから約20分。帰署してから使用した毛布などの整理を済ませる。これで、いつ出動命令が出てもいい。

隊員の1人は、救急車を運転していて一般の自動車が道をあけてくれないのが一番こまる。特に冬は窓を締め切つてあるので、近くまで行かないと救急車に気づかないようだ、という。

17時28分。高島の国道1号線で交通事故発生。警察から連絡が入る。消防署救急隊出動。オートバイが歩行者をはねる軽傷だったが応急手当をして念のためK病院へ運ぶ。

20時。夜間の点検を行なう。異状なし

23時。指令室は昼間と同じように、119番を受ける指令操作台と火災監視用テレビの前に2名が勤務。119番の呼び出しが入る。しかし、相手は出ない。いたずら電話だ。今日も間違いやいたずら電話が10回ほどかかつてきた。日曜日などは当直医院の問い合わせを119番でして来る



【朝の交代・今日1日何もなければいいが】

人も多い。消防署の電話番号51-0105～0109番にかけなおしてもらおう。

3時15分。仮眠室の内線電話が鳴る。東名高速道路で交通事故発生。富士川サービスエリアの西だ。事故現場まで10分追突事故だ。負傷者は3人。助手はベツトで寝ていたので軽傷ですんだが、運転手は運転席にはさまれている。簡単に救出することはできない。救急車の無線で消防工作車の応援を依頼。工作車が来るまで時間がかかるので、2人の負傷者を乗せて清水市内の病院へ運ぶ。帰署したのは5時を回っていた。

7時。起床。まもなく勤務も終りだ。指令室で1時45分にも平垣本町へ救急出動があつたことを聞く。

8時30分。次の勤務者と交代。緊張していたので24時間が短かく感じた。



現場へ着くとすぐ負傷者を救出



病院も受入れ態勢を整えてくれている

さくらの会などから 1470本の苗木が

富士市緑いつぱい市民の会では、さきごろ理事会を開き、今年度中の事業計画新規加入者の承認についてなど話し合いを行ないました。

緑いつぱい市民の会は、昨年5月、婦人会や花の会など40団体3個人が集まって結成され、緑いつぱいの町づくりを積極的に進めてきました。これまで、家庭内への1本植栽運動をはじめ、各地区へのフラワーポットの設置、2回にわたる緑と花の百科展など多くの緑化事業を進めています。

今年度の事業計画によると、サクラの名所づくり、市の木や花の植樹を行ないます。

■サクラの名所づくりに伴う仮植

県および日本さくらの会から、八重ザクラ、よしのザクラなど2年生のサクラ1270本が贈られるので、2～3年岩本山などへ仮植しておきます。

■サクラの名所復活植樹

富士宮市北山の県さくら母樹園から5年生以上のサクラ200本が贈られるので、3月初旬に広見公園へ植樹する予定です。

■市の木、花の植樹

市の木…事業所緑のスペース調査に協力してくれた事業所に対し、くすの木を配布します。

市の花…平垣町、青島、南町の3公園をモデル地区として、3月25日にバラ300本を植樹します。

■新規加入者を承認

緑いつぱい市民の会は、現在、46団体7個人で組織されていますが、新たに1事業所が加入しました。

なお、48年度事業の「緑と花の百科展」の日程が決まりました。

第3回緑と花の百科展を4月8日に行ないます。会場は前回と同じ市役所広場で午前8時から午後4時まで開催します。今回は、マツ、サツキ、コノテカシワ、カイヅカイブキなど常緑樹を主体に盆栽や草花、花木など2万点が出陳されます。

また、グリーン相談所を開設し、家庭造園（屋上庭園など）、花壇の造り方、病虫害の予防や駆除のしかた、緑の上手な植え方、育て方などを無料で相談に応じます。また家庭内への1本植栽運動を進めるため、土や苗木の無料配布なども行ないます。

このほか、児童公園や地区公園の管理をする公園愛護会の結成についてなど話し合いを行ないました。

花壇を色どる

春まき草花を

3月も中旬になれば、いろいろの草花のたねをまく季節です。早いものは5月になると庭の花壇を色どつてくれます。春まき草花の代表的なものは、夏のアサガオ、ヒマワリ、秋のサルビヤ、ケイトウなど。時期を失なわないようにたねをまいてはいかがですか。

春まきは、秋まきと違って、寒さの心配がなく、床まき（じかに花壇にたねをまく）できるものが大部分です。床まきすると根が四方に張り、育ちが良く、移植の手数もはぶけるので便利です。

床まきができるものは、ヒヤクニチソウ、マリーゴールド、ケイトウ、サルビアなどです。箱まきするものには、ペチコニア、アフリカハウセンカ、ダイアンサス（なでこの仲間）などがあります。

マツやツツジなどを植樹

田子・小須海岸の第2堤防へ

海岸を緑でいつぱいにし、いこいの場にしようと、田子や小須地区で2月18日、クロマツツツジなど2650本を植樹しました。朝からの雨にもかかわらず、田子や小須地区の人たち、花の会会員など200人が参加して行なわれました。植樹は2年生のクロマツ（20～30センチ）2000本、サツキ、ツツジ、グミなど650本で、第2

堤防へ行ないました。なお、グミは肥料木として黒松10本に対し1本の割りで植えられました。

このほか、18日には今井本町や桧町、20日に三四軒屋地区でもクロマツの植付けが行なわれました。

【写真はクロマツを植える田子や小須地区の人たち】



富士山の自然と環境を守る会発足

富士山の乱開発を防ぎ自然環境を保護するため、昨年6月、富士市をはじめ富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町の4市1町で「富士山の自然と環境を守る会」の準備会を結成しました。その後、数回にわたり各市の現状、今後の対策などが話し合われ、2月16日に正式発足し、裾野市の岩崎市長が会長に選ばれました。

富士山を守る会は、かけがえのない自然と環境を守るため、各市の情報交換はもとより情報収集、調査研究、関係省庁や関係者との話し合いなどを行なっています。

会の基本的な方針は次のとおりです。富士山は日本の象徴であり、世界に誇るかけがえのないものです。しかし、山麓地帯は無計画、無秩序な開発が押しよせつつあります。環境破壊の波を阻止するため、行動と実践を他に先がけて行なう決意を「富士山の自然と環境を守る会」の名において表明しました。

この決意を踏まえ、次のことを進めて

いきます。

■農林業施業者の保護育成をはかる行財政施策の推進、山麓地域の崩壊を引き起す土地転売の抑制と資産の保有保全を呼びかける。

■ゴルフ場、レジャー施設など現在の大規模施設の拡大や今後の開発行為などは、自然の保護と環境保全をはかることを基本条件とし、それぞれの自治体独創の審査、指導基準によつて厳しく対処する。

■中部圏保全区域整備計画やその他の開発計画の実施にあつては、地域住民の意志が反映されるよう働きかける。

■富士保全法（仮称）静岡県自然環境保全条例（仮称）など、

いずれも関係地域自治体の意志に合うよう働きかける。

■富士山をとりまく自然の保護や自然環境の保全などの環境問題解決を住民と一体になつて進める。

■富士山の自然環境保全については、自治体の区域にとらわれず、富士山麓全域の共通課題として働きかける。



慣れた火に新たな注意

春の火災予防運動 2月28日～3月13日

春先は空気が乾燥して火災が発生しやすく、発生すると大火になりかねません。火災のほとんどは、ちよつとした不注意から起つています。このため、市民みなさんに火災の恐しさを認識していただき火災の発生を防止するため、「慣れた火に新たな注意」を統一標語に、2月28日から3月13日まで春の火災予防運動を実施します。運動は前半の7日間が車両や

船舶、林野の火災防止、後半の7日間が一般火災防止を重点に進めます。

■火災警報には十分な注意を

空気が乾燥し火災が発生しやすい気象条件になると「火災警報」が発令され、屋外で火を使うことなどが制限されます。火災から尊い生命や大切な財産を守るためですから、火災警報が発令されたら火のもとには十分注意してください。



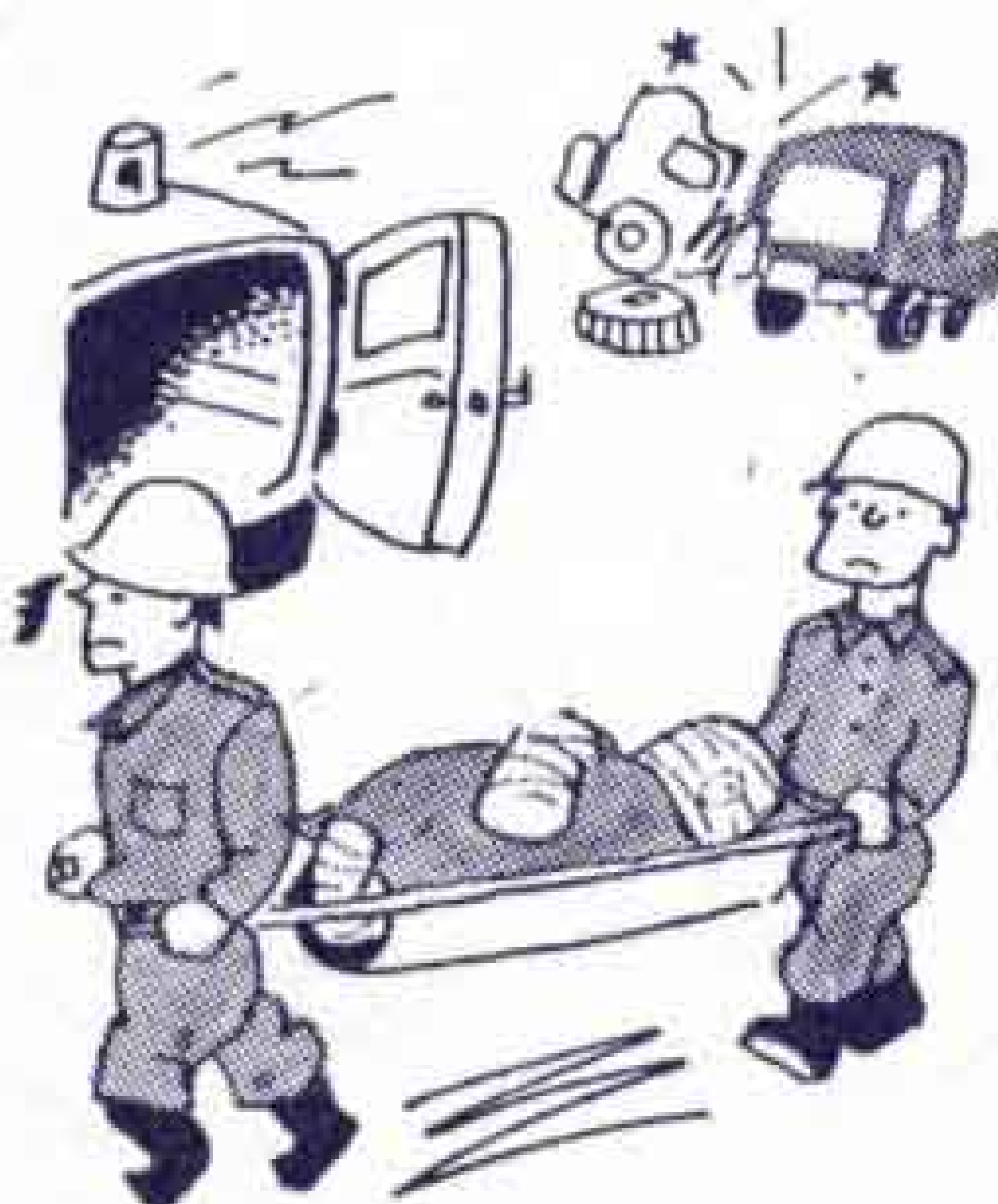
■枯草の始末もお忘れなく

空地の枯草から建物や山林に燃え移り大火災になつた例も多くあります。投げ捨てられた吸いかけのタバコからでも火が付きます。昨年も枯草火災による出動は、1年間に30件もありました。家の回りや土地の管理もお忘れなく。

件数 202件
(昨年1年間で2544件)

死者 1人
(昨年1年間で31人)

負傷者 89人
(昨年1年間で1318人)



一月の
火災件数
交通事故



9件発生
(昨年1年間で81件)

損害額 1153万円
(昨年1年間で7885万円)

死者 0 傷者 6
(昨年1年間で死者5人
負傷者10人)

ゴミ公害のもとになる 過剰包装はやめよう

買い物の過剰包装について日ごろ感じていることを……。狙いは恐らく豪華に見せんがためのカモフラージュだと思いますが、その傾向が年ごとに強くなっていくような気がします。余分なお金を使つてゴミを生産していると同じで、実にもつたいないと思います。

包装には防犯の目的もあるようですが、それもちよつと考えれば解決できるのではないのでしょうか。たとえば、「代済み」をチエツクできるような「印」を押すのも一つの方法だと思います。そのほかにもいろいろな方法があるのではないのでしょうか。

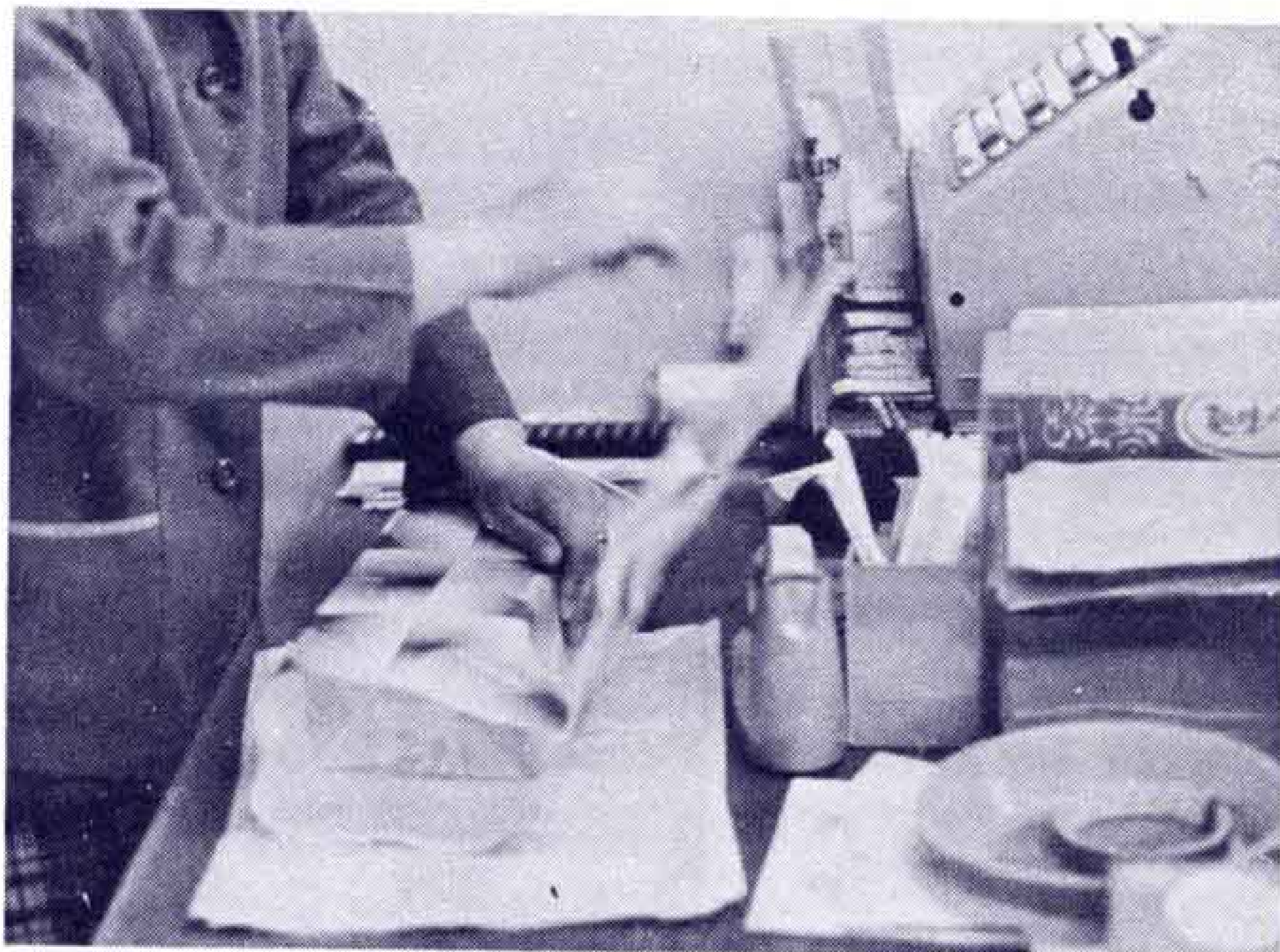
とにかく、ゴミ公害になる余分な包装を追放する努力をもつと積極的にすべきです。そのためには消費者

である私たちも、前向きに協力することが必要ではな

いでしょうか。

そして、過剰包装にかけるお金を商品の内容充実にまわせば、客へのサービスにもなり、一石二鳥の効果があがると思います。正しい意味の消費者サービスということをもつともつと検討してくれればと思います。

(窪田信子・富士岡洪協)



【過剰包装はゴミ公害のもと】

市政モニター提言



保育園の運営は

保育園は、それぞれの家庭の事情によつて、保育に欠ける乳幼児を、家庭にかわつて保育し、豊かな人間性をもつたこどもに育てるための施設です。このため保育園は児童福祉法の児童福祉施設として、公・私立とも同じ基準で運営されています。

たとえば保育料については、その家庭の所得状況など(税額により8段階に区分されています)によつて定められてい

ます。その納めていただく保育料の基準は、公私立とも同じで、市が調査をして決定します。したがつて、入園者の決定も公私立とも市長の責任で行なつています。

なお、入園基準は次のようになっています。

- ・共稼ぎ世帯や母子家庭で、母親が外で働くため、こどもの保育ができない場合。
- ・母親が内職や家内工業などのためこどもを保育できない場合。ただし、家庭工業などで両親が同じ仕事をしていて

使用人がいる場合は除かれます。

- ・母親がいない家庭で、かわつて保育をする人がいない場合。
- ・母親が長い間入院していたり、家庭に病人がいて母親が看護するため保育ができない場合。

広報ふじ No.127 にモニター提言として「市立保育園を充実して」を取りあげましたが、保育園の特殊性を考慮せずに掲載し、私立保育園のみなさんにご迷惑をおかけしましたことをおわびいたします。

(企画調整部広報課)

当直医院

休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。急病のときにご利用ください。

■3月4日

外科 米山病院(吉原4 52-3060)
望月医院(本市場 61-0401)
産婦人科 山下医院(西国窪52-0611)

■3月11日

外科 渡辺病院(錦町1 51-3751)
秋山医院(富士岡 34-0075)
産婦人科 米山病院(吉原4 52-3060)

■3月18日

外科 芦川病院(中央町2 52-2480)
清河医院(広見町6 52-6212)
産婦人科 北西医院(本市場61-0119)

■3月21日

外科 快明堂医院(中央町1 51-0301)
中央病院(本市場 61-8800)
産婦人科 中央病院
(本市場 61-8800)

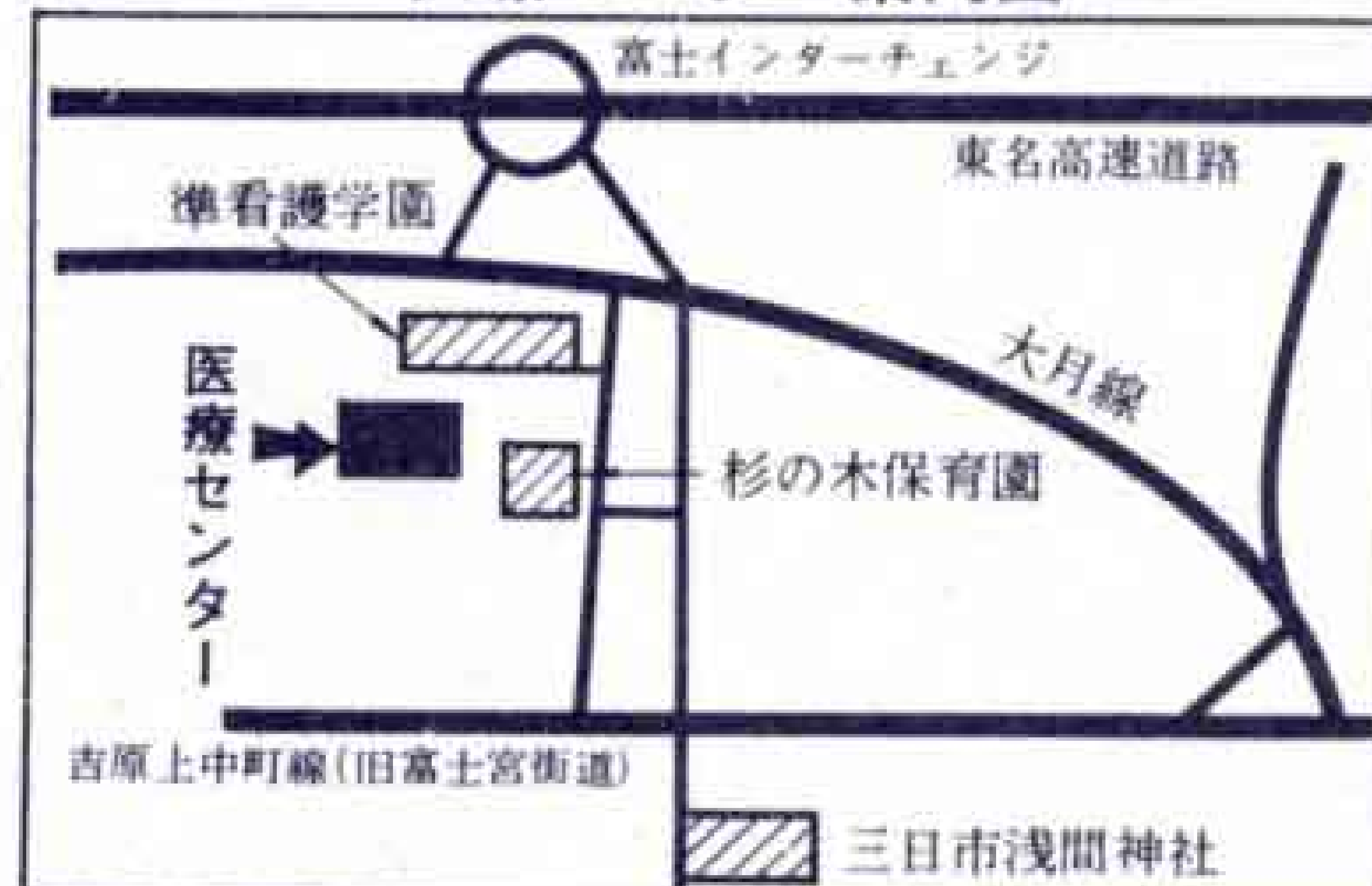
■3月25日

外科 吉原病院(南町 52-0780)
田辺医院(本市場 61-8410)
産婦人科 池谷医院(水戸島61-0873)

※内科、小児科は富士医師会が「医療

センター」で行つています。診療時間は午前9時から午後5時までです。

医療センター案内図



医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2(長者町)」電話は52-3104です。



給食にミカンのデザートが

2月19日から3学期中

小中学校と保育園の給食に、2月19日からミカンが添えられ、子どもたちも思わぬデザートに大喜び。

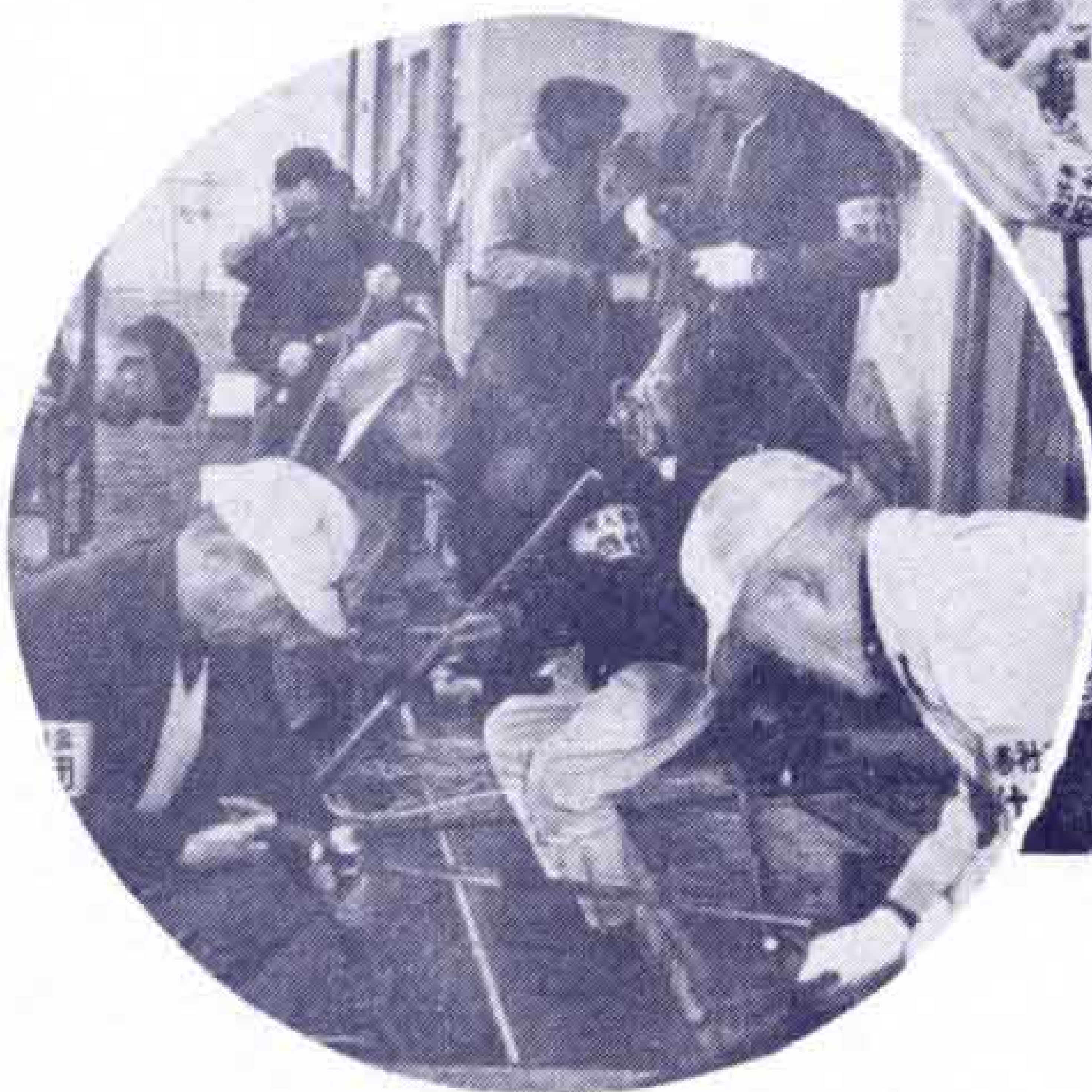
去年は豊作貧乏といわれるほどミカンが取れすぎ、市内の貯蔵量も1800トンと例年の倍近くもあります。そのため価格は暴落し生産費を大巾に割り、再生産も出来ない実状です。こうした中で農協からの申し出もあり、暴落したミカン価格の底上げ対策の一環として、市でミカンを買上げ、給食のデザートに添えることになり、19日から3学期いっぱい行ないます。

市内の小中学校は32校で生徒数は29,000人、保育園は23園で2350人の園児がいるため、富士農協、吉永農協、岩松農協から約46トンを150万円で買入しました。

【今日からミカンのデザートが＝2月19日伝法小学校で】

竹馬の贈りものに大喜び

子どもたちに「竹馬」を、と天間老人奉仕団（代表西原寅雄さん）のみなさん50人が、天間幼稚園のよい子に竹馬を作つて贈り、乗り方の指導などをしました。「竹馬を見るのもはじめて…」という子どもも多く、贈り物に大喜び。さつそく、おじいさんやおばあさんに乗り方を教わり、真剣に竹馬と取組んでいました。

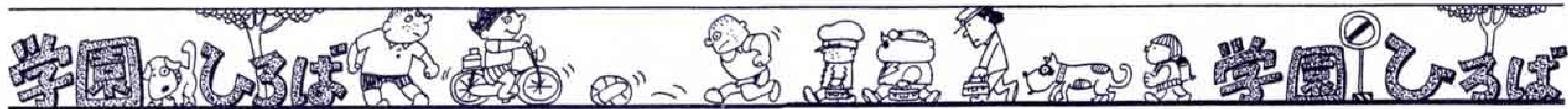


好成績のスポーツ教室生

…バドミントン大会・卓球大会…

市民卓球大会とバドミントン大会がさきごろ市立体育館で行なわれました。卓球大会には中学生から一般まで520人が参加し、部門別に腕をきそい合いました。出場選手の最年長は、吉村忠正さん（58才、中島新道町）で壮年の部で2位を勝ち取りました。

バドミントン大会＝写真＝には57チーム、260人の参加者がありました。なかでも、初心者女子の部に出場したスポーツ教室の生徒は、日ごろの練習の成果が十分発揮され、AチームとBチームで決勝戦を行ない、Aチームが優勝、Bチームが2位を獲得しました。



ゴール前500メートルで追い抜く

…富士宮駅伝で2中が初優勝…

富士宮駅伝大会の中学の部で、吉原第2中学校が優勝候補の北山中学校（富士宮）を破り、初優勝をかざりました。駅伝大会は今年で23回目と古く、コースは

富士宮浅間神社と白糸の滝を往復する34キロで、6区間に別けて行なわれました。中学の部の参加チームは、13チームで、市内から参加したのは吉原2中だけでし

た。

メンバーは、萩原裕泰君、望月一敏君、上柳和也君、坂木佳典君、鈴木弘文君、井出宏君と補欠の佐野富彦君、渡辺俊治君の8人で、全員が1・2年生です。大会では、2区と5区、6区の3区間で区間賞を取るなど全区間で好記録を出し、北山中をゴール前500メートルで追い抜き、接戦のすえ初優勝をかざりました。



【左・優勝した2中チーム
上・ゴールする井出君】



本を読みたい
ときは……

みんなは「本を読みたい」と思ったとき、いつもどうするのかな。本を買って読むのもいいけど、お父さんやお母さんにこずかいをせびつたりしないで、できるだけ図書館や公民館を利用するといいよ。中央図書館には、一般図書、児童図書、巡回図書を合すると46,400冊もあるんだ。そのうち貸し出しのできる本は4分の1ほどだけど、貸し出しのできない本でも図書館で読むことはできるよ。図書館の開いている時間は午前9時から午後5時まで、月曜日が休みなんだ。

ところで、図書館が遠くて行けない人のために「自動車文庫」があるよ。自動車文庫は動く図書館のことなんだ。本を読みたいという申込みのあつた公民館、学校、団地、事業所など市内64カ所を回つて本を貸し出しているよ。自動車文庫を利用したい子は、5人以上でグループをつくり、だれかのお父さんかお母さんに保証人になつてもらい、中央図書館へ申込みばいいんだよ。そうすれば月に1度きめた場所に来てくれるからおおいに利用しようね。

“みんなじょうずだね”

絵画や工芸など650点を展示

小中学校の美術作品展が2月17日から3日間、吉原市民会館で行なわれました。

展示した作品は、みんなが去年の4月から造つたものや書いたも

ので、各学校から募集した絵画、工作、工芸など650点です。どの作品もできばえはよく、見学に来たお父さんやお母さんたちも感心していました。

